

提出は8月末まで

## 初期消火資器材の更新申請

消火栓の横に設置されているホース格納箱や小型動力ポンプ格納庫と、その中に収納されているホースやノズル、消火栓のハンドルなどの老朽化や破損があれば、市では修繕・更新します。

希望される自主防災組織は、「初期消火資器材更新申請書」を最寄りの消防署や分署、出張所に提出してください。

申請書は前述の場所にあるほか、市HPからもダウンロードでき

ます。なお、同ページには「初期消火資器材点検表」も掲載されていますので、貴団体の初期消火資器材の点検にご活用ください。更新申請書の提出期限

8月末日までに提出



## 隊長の固定化が効果的

自主防災組織の活動活性化を図るためには、防災に関する知識の豊富な方が先頭に立ち、隊長として指導・活動されることが効果的です。

そのために、市では自主防災組織の隊長を複数年、固定化することを推奨しています。

なお、自主防災組織による初期消火訓練(消火栓や防火水槽と小型動力ポンプを利用)などは年1回以上の実施をお願いします。

問合せ先  
高山消防署防災課  
☎3210119  
1003871

## 村上橋を架け替えました [奥飛驒温泉郷村上・柏当]

国の河川改修事業(平湯川砂防樹林帯)に伴い、平成26年度より架け替え工事を行ってきました村上橋が完成しました。

工事期間中は通行規制などにご協力いただきありがとうございました。



問合せ 建設課 ☎35-3147

## 飛驒山脈ジオパーク構想 ジオサイト(第6章)

### 焼岳と栃尾小学校の砂防学習

奥飛驒温泉郷は5つの温泉地(平湯・福地・新平湯・栃尾・新穂高)の総称で、多くの観光客が訪れています。これらの温泉の熱源が焼岳とその近くの火山に由来することは容易に想像できます。この辺りは現在も噴煙を上げている焼岳や、乗鞍岳、アカンダナ山などの活火山が連なる地域です。温泉は火山活動の恩恵であり、自然の景勝地と共に癒しの代名詞として私たちに潤いをもたらしています。

一方、平成26年の御嶽山噴火で多くの犠牲者が出たため火山防災の見直しが急務となり、翌27年、活火山法が改定されています。すでに北稜中学校では平成24年からの二カ年間、県防災教育推進事業の指定を受け、子どもから大人まで地域が連携して防災教育に取り組み災害に備えています。「自分の命は自分で守る」をキーワードに、正しい知識を学び、判断力や行動力を養う「命を守る訓練」を実施しています。

栃尾地区の洞谷では、昭和



54年に豪雨により土石流災害が発生したため、現在では立派な砂防えん堤が整備されています。栃尾小学校ではNPO法人神通砂防、京都大学防災研究所の協力を得て砂防えん堤の役割や防災の大切さについても学んでいます。

土石流は山脈を配する地形や火山活動による地質の特徴が大きく関わっています。自然と正対し火山との共存共生のためにも、子ども達や地域の人たちの防災教育はますます大切になります。

(飛驒地学研究会三塚洋)

問合せ先

飛驒山脈ジオパーク推進協議会

☎0576-84-0038